

議題（１）

他館のコンセプト事例及びコンセプトに即した機能事例
（説明資料）

長崎原爆資料館

区 分	個 人	団 体 (15名以上)
一 般	200 円	160 円
小・中・高校生	100 円	80 円

※幼児は無料

(5) 開館時間

午前8時30分～午後5時30分（5月～8月は午後6時30分まで）

(6) 休館日

12月29日～12月31日

(7) 駐 車 場

ア 駐車台数 大型バス 12台、普通車 71台

イ 開場時間 午前8時～午後6時（5月～8月は午後7時まで）

ウ 料 金 大型バス 最初の1時間まで510円（以後30分毎に510円）
普通車 最初の1時間まで100円（以後30分毎に100円）

(8) 付属施設

ア 図 書 室

平成11年11月から貸出業務を開始した（一部の図書を除く。）。

コンピューター図書オンラインシステムにより、市立図書館、公民館やふれあいセンター等の所蔵図書が相互に検索、予約、貸出、返却可能となっている。

(ア) 利用時間 午前9時～午後5時

(イ) 休 日 毎週月曜日、12月29日～1月3日

(ウ) 蔵 書 数 (平成28年3月31日現在) (単位：冊)

一般図書	児童図書	合 計
22,702	2,728	25,430

(エ) 利用実績 (平成27年度)

入室者数	貸出利用者数	貸出冊数
14,290	3,309	6,538

イ 原爆資料館ホール

(ア) 収容人員 348人（固定席 345席＋車椅子用 3席）

(イ) 利用時間 午前9時～午後10時

(ウ) 休 日 12月29日～1月3日

(エ) 付属設備 楽屋1、通訳ブース4、調光室1

(オ) 利用実績

(単位：件)

年 度	平和学習	講演会	研修会	その他	計
23	221	30	12	39	302
24	219	30	4	39	292
25	199	20	8	41	268
26	198	14	7	46	265
27	223	19	4	62	308

ウ 平和学習室

(ア) 収容人員 A・B・C 各部屋 50人 全体使用時 150人

(イ) 利用実績（公益財団法人長崎平和推進協会による被爆体験講話の件数）

年 度	平和学習（件）
23	258
24	264
25	274
26	287
27	261

エ 企画展示室

常設展示と相互補完し、より具体的に、より多面的に原爆被害の実相を見て、感じて、学んでいただくため、常設展示室で展示していない資料などを期間を定めて展示したり、毎年テーマに基づいた被災資料や記録資料、絵画などの企画展示を開催している。

オ 企画展実績

年度	企 画 展 名	開 催 期 間	作品数(点)	入場者数(人)
23	「永井隆博士のまなざし」展	平成23年5月17日～平成23年7月25日	40	約 70,000
	原爆資料館収蔵資料展	平成23年7月28日～平成23年9月15日	30	約 36,000
	「8.10ナガサキ」展	平成23年10月20日～平成24年3月6日	60	約 28,000
	原爆を伝える一世代を超えて— いまも残る被爆樹木	平成24年3月28日～平成24年6月20日	50	約 56,000
24	原爆資料館収蔵資料展	平成24年7月4日～平成24年9月2日	30	約 48,000
	軍需工場での青春 —動員学徒と原爆—	平成24年9月13日～平成25年1月30日	50	約 61,000
	長崎<11:02>東松照明写真展	平成25年2月14日～平成25年6月30日	65	約 79,000
25	原爆資料館収蔵資料展	平成25年7月10日～平成25年8月28日	40	約 49,000
	「復興・長崎」被爆から6年後の旅 展	平成25年9月5日～平成26年1月30日	70	約 94,000
	生と死のはざままで 被爆者救援列車展	平成26年3月26日～平成26年6月30日	20	約 63,000
26	原爆資料館収蔵資料展	平成26年7月23日～平成26年9月28日	40	約 56,000
27	〔常設展示室機器更新のため企画展示中止〕			

(9)入館状況

(単位:人)

年 度	個 人			団 体			無料入館	合 計
	大 人	小 人	計	大 人	小 人	計		
23	187,286	29,885	217,171	69,222	273,073	342,295	95,037	654,503
24	187,658	28,815	216,473	81,796	252,318	334,114	94,263	644,850
25	215,307	30,434	245,741	78,331	248,564	326,895	94,743	667,379
26	229,019	29,646	258,665	85,087	238,696	323,783	89,473	671,921
27	275,777	34,212	309,989	92,685	241,520	334,205	99,551	743,745

(10) 原爆被災資料等の展示及び活用状況

ア 目 的

核兵器による惨事を再び人類史上に繰り返さないために、世界恒久平和の実現を訴えることは、長崎市民の使命であり責務である。このため、長崎原爆資料館に原爆被災資料を保存、展示し、被爆の実相を多くの人々に知らしめるとともに、原爆被爆の悲惨さを世界に向かって訴え、平和の輪を広げようとするものである。

イ 原爆被災資料等の展示状況

館 内(平成28年4月現在)

(単位:点)

被災物品	絵画・模型・標本	写真資料	映像資料	合 計
420	279	777	80	1556

長崎原爆資料館展示室更新整備について

1 概要

長崎原爆資料館が開館から20年を迎えるにあたり、被爆70周年事業として、最新の映像・情報機器等の導入により観覧環境を改善したほか、米国国立公文書館で収集した写真・動画資料や被爆者の絵画等を公開するなど、展示内容の充実を図った。

- ① 展示環境改善 全21展示コーナー中 19か所
- ② 展示内容充実 新規資料の展示 約600点(927点から約1,500点)

2 事業内容

- 観覧環境の改善のため、液晶モニター・デジタル映像再生機器(57台)、LED照明(282灯)を導入した。
- 展示内容の充実のため、米国国立公文書館などにおける新規収集資料(約340点)を展示するとともに、被爆者の描いた絵画、紙芝居など(約200点)を展示閲覧できる環境を整備した。
- 増加する外国人来館者のため、スマートフォン等で多言語の説明文が閲覧できるシステムを導入した。


3 主な整備箇所



(1) エントランスロビー

整備前	整備後
整備内容	来館者がスムーズに展示室に行くことができるよう、展示室を案内する壁面及び床面サインを更新した。



(2)円形スロープ

整備前	整備後
	
<p>整備内容</p>	<p>時を遡るという展示室に至るスロープのコンセプトを強化するため、壁面へ年号を表示した(2000年～1945年)。</p>


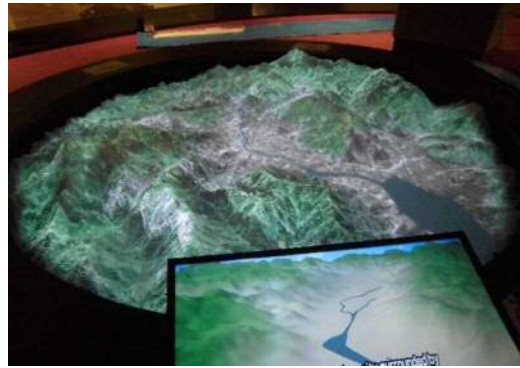
(3)展示室入口

整備前	整備後
<p>① </p> <p>② </p> <p>③ </p>	<p>① </p> <p>②  27インチモニター</p> <p>③  80インチモニター</p>
<p>整備内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> 決して忘れてはならないあの日「1945年8月9日11時2分」を強調するため、冒頭に柱時計を展示。 27インチモニターにデジタル化した被爆前の長崎に関する写真資料を展示。 原爆の凄まじさを印象付けるため、80インチの大型モニターで高解像度の原爆炸裂の映像を展開。



(4)LED照明(展示室)

<p>① Bコーナー「浦上天主堂の惨状」</p> 	<p>② Cコーナー「核兵器の時代」</p> 
<p>整備内容</p>	<p>展示資料を保全するとともに、暗くて資料が見にくかったBコーナーの明度を一定に保つなど来館者に快適な観覧環境を提供できるよう展示室内の照明をLEDに取り替えた。</p>



(5)プロジェクションマッピング

<p>整備前</p> 	<p>整備後</p> 
<p>整備内容</p>	<p>ジオラマ(長崎の地形模型)へのプロジェクションマッピング技術を活用して、熱線、爆風、放射線による被害の地理的な広がりカラー映像で示し、被爆の状況を分かりやすく理解できるようにした。</p>

(6)ファットマン

<p>整備前</p> 	<p>整備後</p>  <p>42インチモニター</p> <p>記載カウンター</p>
<p>整備内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ファットマンの色調を現物と同じ黄色に再現するとともに、42インチモニターを設置し、原爆積込動画を展開。 ・記載カウンターを設置し、児童等の学習環境の向上を図った。


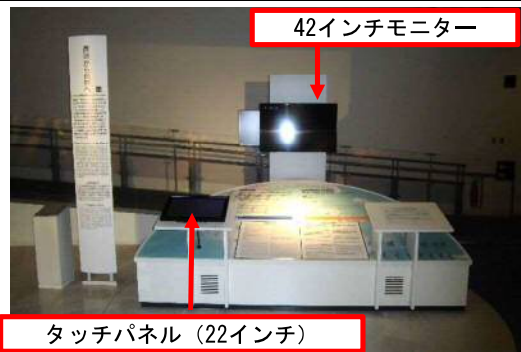
(7) 熱線による被害

整備前	整備後
	 <p data-bbox="786 651 1023 696">42インチモニター</p>
<p>整備内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> 被爆後の様子をパノラマ写真で展示し、被害の面的な広がりを見てもらう。 液晶モニターを設置し、新規資料を追加で展示できるようにした(爆風による被害、放射線による被害等も同様)。

(8) 被爆者の訴え

整備前	整備後
	 <p data-bbox="786 1059 1308 1104">42インチモニター (公文書館収集資料・絵画)</p>
<p data-bbox="264 1547 754 1592">崎陽のあらしのイメージ (タッチパネル)</p>	
<p>整備内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> 被爆者の絵画や紙芝居(約200枚)、旧日本軍の報道部画家山田栄二氏の原爆記録絵画(約30点)をデジタル化し、モニターで閲覧できるシステムを導入した。 長崎原爆絵巻「崎陽のあらし」(約11m)の全体像が見られるよう、タッチパネルモニターを設置した。

(9)長崎から世界へ

整備前	整備後
	 <p style="text-align: center;">42インチモニター</p> <p style="text-align: center;">タッチパネル (22インチ)</p>
<p>整備内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・42インチモニターを設置し、被爆50年から70年までの歩みについて新規映像を追加。 ・平和首長会議及び日本非核宣言自治体協議会加盟都市をタッチパネル(22インチ)で検索できるシステムを導入。

(10)その他

①観覧スペースの拡大(デジタル機器の導入による)

整備前	整備後
<p>【熱線・爆風による被害】</p> 	 <p style="text-align: center;">スペース拡大 (+4.9㎡) ※爆風の部分は+2.7㎡</p>
<p>【ビデオルーム2】</p> 	 <p style="text-align: center;">スペース拡大 (+7.3㎡)</p>
<p>整備内容</p>	<p>液晶モニターやデジタル再生機器を導入したことによって、観覧スペースが拡大(熱線: +4.9㎡、爆風: +2.7㎡、ビデオルーム2: +7.3㎡)し、観覧環境が改善した。</p>

②多言語解説

<p>English</p> <p>02</p> <p>Nagasaki Before the Atomic Bombing (Series of Photos)</p> <p>These photos show the scenery, manners, and customs of old Nagasaki dating from the late Taisho era to late World War II. You can see how the town, old Nagasaki City Hall, old Nagasaki Station, and old Urakami Cathedral looked before the atomic bombing. Also, the lifestyle of citizens during the war can be seen as well.</p>	<p>多言語解説の案内板（館内掲示）</p> <p>展示資料解説 Explanation of Exhibition Materials</p> <p>下記QRコードを読み取って、解説をご覧ください。</p> <p>Please scan the QR Code below to see the explanation.</p> <p>請掃描下方二維碼以獲取解說。</p> <p>해당 QR 코드 를 스캔하여 解説를 보실 수 있습니다.</p> <p>Por favor, escanear el código QR adjunto para leer la explicación.</p> <p>Scann de următoarele QR Code este de utilizat în scop.</p> <p>Сканируйте QR-код для просмотра описания экспонатов.</p> <p>QRコード読み取り</p>
<p>整備内容</p>	<p>増加する外国人来館者に対応するため、モバイル端末により、展示コーナー等の解説を11カ国語【日・英・中・韓・西・仏・独・蘭・露・ポルトガル・アラビア）で閲覧できるシステムを導入した。</p>

③原爆資料館ホール

	<p>プロジェクター (天井取付【昇降式】)</p>	<p>配線BOX</p>
<p>整備内容</p>	<p>プロジェクターの更新やPCセッティング用の配線BOXの設置により、ホールの機能性の向上を図った。</p>	

④平和学習室

	<p>卓上マイク (マイクシステム)</p>	<p>パソコン (遠隔地と接続)</p>
<p>整備内容</p>	<p>遠隔地に住む学生等と平和学習が行えるようインターネット会議システムを導入するとともに、多様な会議に対応できるようマイクシステムを導入した。</p>	